



環境・社会報告書
Japan Beverage Report
2020



人に、街に、地球にうるおいを

C O N T E N T S

- 01 編集方針・ジャパンビバレッジグループの事業概要
 - 02 地域販売会社
 - 03 トップメッセージ
 - 05 ジャパンビバレッジグループの
事業と取組み紹介
-
- 07 **特集1** プラスチック問題への対応
～自動販売機専業オペレーターNo.1として～
 - 09 **特集2** ジャパンビバレッジのオペレーション改革
 - 11 **特集3** スポーツを通じた社会貢献
-
- 12 ガバナンス報告
コーポレート・ガバナンス
 - 13 環境報告
環境マネジメント&パフォーマンス報告
 - 15 社会性報告
取引先・お客様・従業員とのかかわり
 - 17 社会性報告
地域社会・拠点とのかかわり
 - 18 第三者意見



Japan Beverage Report
2020

編集方針

本レポートは、ジャパンビバレッジグループの理念と事業の現状、および環境・社会活動を紹介する会社案内と環境・社会報告書の役割を果たします。ステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン2018年版

報告対象範囲

ジャパンビバレッジグループ
※環境報告および社会性報告のデータの対象が異なる場合は、範囲を別途記載しています。

報告対象期間

2019年1月1日～2019年12月31日
※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

発行

2020年5月(次回2021年5月予定)

ジャパンビバレッジグループの事業概要

社 名 株式会社 ジャパンビバレッジホールディングス
本 社 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 エステック情報ビル
創 業 1958年7月
資 本 金 1億円
事業内容 グループ全体の経営戦略の策定・推進
自動販売機による各種食品飲料の販売

デ ー タ (2019年度 グループ合計)

売上高————— 1,481億円
自動販売機稼働台数————— 21.4万台
マルチドリンクサーバー稼働台数— 4.9万台
従業員数————— 5,026人

地域販売会社

株式会社 ジャパンビバレッジ 北海道

設立 2004年3月
本社 北海道札幌市白石区米里一条四丁目6番1号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 札幌・函館・旭川

株式会社 ジャパンビバレッジ 九州

設立 2006年3月
本社 福岡県糟屋郡宇美町大字井野字岩長浦316番590
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 福岡・大分・熊本・長崎・佐賀

株式会社 ジャパンビバレッジ 東北

設立 2007年5月
本社 宮城県仙台市若林区卸町東四丁目2番25号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 宮城・福島・秋田・岩手・山形

株式会社 ジャパンビバレッジ 沖縄

設立 2001年12月
本社 沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武192番地
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 沖縄

株式会社 ジャパンビバレッジ イースト

設立 2010年5月
本社 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目9番地6
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 東京(多摩)・埼玉・山梨・栃木・茨城・群馬・長野・新潟

エースター 株式会社

設立 1972年2月
本社 千葉県千葉市中央区中央1丁目1番3号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 千葉

株式会社 ジャパンビバレッジ 東京

設立 2010年11月
本社 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 東京(23区)・千葉

株式会社 ジャパンビバレッジ エコロジー

設立 1995年2月
本社 埼玉県さいたま市北区吉野町二丁目272番地5
事業内容 飲料容器の再生処理、加工品の販売
グループ全体の環境戦略の策定・推進

株式会社 ジャパンビバレッジ セントラル

設立 2010年11月
本社 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目13番13
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 神奈川・静岡・愛知・岐阜・三重

株式会社 ジェイビーサービス

設立 1994年3月
本社 東京都新宿区高田馬場四丁目40番12号
事業内容 各種保険業と業務の代理、事務代行

株式会社 ジャパンビバレッジ ウェスト

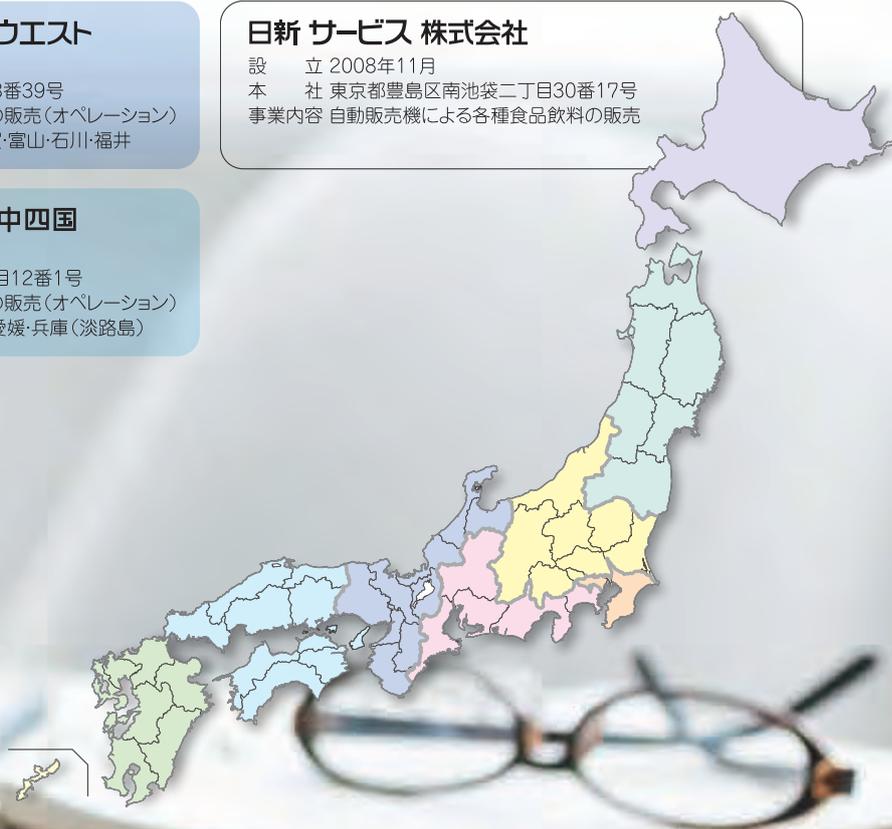
設立 2010年5月
本社 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目3番39号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 大阪・京都・奈良・和歌山・兵庫・滋賀・富山・石川・福井

日新 サービス 株式会社

設立 2008年11月
本社 東京都豊島区南池袋二丁目30番17号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売

株式会社 ジャパンビバレッジ 中四国

設立 2006年3月
本社 広島県広島市安佐南区八木一丁目12番1号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売(オペレーション)
エリア 広島・山口・岡山・高知・香川・徳島・愛媛・兵庫(淡路島)





会社・組織風土を磨き、更なる「Good JB」を目指していきます

自動販売機専門オペレーターNo.1として

ジャパンビバレッジグループは1958年の創業以来、魅力ある商品と最高のサービスを通じて皆様に潤いを提供し、喜びに満ちた空間と出逢いを創造する事を理念に事業活動を続けてまいりました。現在、全国で26万台の自動販売機・マルチドリンクサーバーを展開しています。日頃よりジャパンビバレッジグループをご愛顧頂いております皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

自動販売機に関する課題への取組み

現在の自動販売機業界は、業界内の競争激化、プラスチック問題、気候変動による自然災害の影響など様々な課題があります。それらに対応するため、ジャパンビバレッジは自動販売機のオペレーション活動の再構築と、

徹底したPDCAをまわし行動革新を行ってまいります。

自動販売機の取組みの一例として、ジャパンビバレッジの主力機である「コンビ機」では、自動販売機の無線データをフル活用した新巡回システムで、自動販売機1台1台に適したきめ細やかなオペレーション体制を実施してまいります。また、現在のトレンドである健康志向に合わせた特保商品をはじめ売れ筋商品のラインナップを展開してまいります。これにより、お客様へ最適な商品の提供、そして生産性の向上も図ってまいります。

そして今喫緊の課題であるプラスチック問題では、ペットボトルもその品目の中の一つとしてとりあげられていますが、ペットボトルはポイ捨てされずにきちんと回収されたものはリサイクルがされています。ジャパン

経営理念

私たちは、魅力ある商品と最高のサービスを通じて人々に潤いを提供し、喜びに満ちた空間と出逢いを創造します。

モットー

1. 「いちばん」を大切にします。

業界No.1のサービスと業績を目指します。

2. 「もっと」を大切にします。

明日はどうすれば、今日よりもっとよくなるかを考え、行動します。

3. 「ちゃんと」を大切にします。

ちゃんとした管理・サービス・行動により高品質を維持し、信頼と安全をお届けいたします。

4. 「やさしさ」を大切にします。

環境にやさしく、地域社会に歓迎されるよう努力を惜しみません。

5. 「あなた」を大切にします。

喜びの創造に向け、「活き活き」とした魅力ある職場をつくります。

ジャパンビバレッジグループ環境方針

制定：平成12年 8月1日
改訂：平成28年12月26日

基本理念

ジャパンビバレッジグループは、地球環境が尊い資産であることを認識し社会に貢献する企業であり続けるために、事業及び社員一人一人の行動を通じ、あらゆる面での環境保全を積極的に推進し、潤いと喜びに満ちた持続可能な社会の創造を目指します。

基本方針

我々は、自動販売機・リテール機による各種食品飲料の販売において、環境に配慮した「グリーン・オペレーション」を基本テーマに掲げ、事業活動に伴う環境への負荷低減を目指し、以下の方針に基づき環境保全活動を行います。

1. ジャパンビバレッジグループの事業活動、商品、サービスに関わる影響を常に認識し、事業運営に即した環境目標を設定し、定期的に見直し環境汚染の防止に努めると共に継続的に改善します。
2. 環境関連法令及びジャパンビバレッジグループが同意した、その他の要求事項を順守します。
3. 環境に関する社内研修を繰り返し実施して、全従業員のレベルアップを図りお客様の環境保全活動の一助となれるように努めます。
4. 重点的に取り組む内容については、以下のとおりとします。
 - ① 自動販売機・リテール機による環境負荷を低減し、地球温暖化防止を推進します
 - ② 車輦に関わる環境負荷を低減し、地球温暖化防止を推進します
 - ③ 3R(リデュース・リユース・リサイクル)に努めます
 - ④ 事業所において水を大切に取扱い、自然界における水の健全な循環に貢献します
 - ⑤ 事業所におけるエネルギー使用の効率化に努めます
5. 環境保全を行なう地域・企業・団体等の活動に協力します。また利害関係者に対しても、環境保全活動の理解と協力を要請し、積極的な情報開示に努めます。

本環境方針は、組織で働くまたは組織のために働くすべての人々に、周知すると共に一般に開示します。

ビバレッジでは自社が運営する飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザJB」でのボトルtoボトルのリサイクルをはじめ、全支店でリサイクル処理フローを構築し資源循環に取り組んでおります。また、ペットボトル以外のワンウェイプラスチックへの対応については、一例としてリテール事業で扱うマドラーに紙マドラー製品を導入しました。プラスチック製品を取扱う事業者として、今後も本問題に取り組んでまいります。

更なる「Good JB」を目指して

事業活動を更に進化させていくためには、現状の課題にしっかりと取り組むことと、課題に向かって全社員が同じ方向を向いて取り組んでいくことが大切です。その中で、会社・組織風土・自分自身を磨き、更なる「Good JB」を

目指してまいります。

そして、ジャパンビバレッジレスリング部は今年川井友香子選手が入部し、所属選手は4名となりました。選手それぞれが各大会で金メダル獲得を目指していきます。スポーツを通じて皆様に感動をお届けできればと思っております。

ジャパンビバレッジグループは、今後も皆様に愛される自動販売機専門オペレーターとなれるよう事業活動を続けてまいります。今後も末永いご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社ジャパンビバレッジホールディングス

代表取締役社長 及川 剛

ジャパンビバレッジグループの 事業と取組み紹介

ジャパンビバレッジグループは、業界No.1の自動販売機オペレーターとして、お客様のご希望にお応えできるよう、品質や環境、社会活動などを基盤にしたサービスを行い、お客様にうるおいをお届けします。

パッケージ自動販売機事業

春・夏・秋・冬の季節に合わせた各種飲料メーカーの人気商品を取りそろえ、お客様のご要望と業態に合わせた商品構成を提案しています。



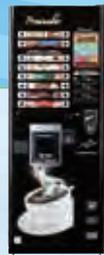
Package

また、食品の自動販売機をあわせて設置することで、オフィスや職場に休憩スペースを実現することも可能です。

カップ自動販売機事業

本格レギュラーコーヒーをはじめとしたカップ飲料を展開しています。季節毎に商品を変更し、バリエーション豊かな飲料を皆様に提供します。

また、材料にプラスチックを使用していたカップを取りやめるなど環境に配慮した取組みを行っています。



Cup

リテール事業

オフィスでの休憩に欠かせないマルチドリンクサーバー（自動粉末給茶機）とコーヒーサーバーなどを展開しています。お茶、コーヒー、紅茶などの定番商品をはじめ、ジャパンビバレッジオリジ

ナルの商品も展開しています。お客様のご要望に応じて、バラエティ豊かな商品のラインナップでご対応いたします。



ジャパンビバレッジオリジナル商品

Retail

TOPICS

ホームページをリニューアルしました

2019年にジャパンビバレッジのホームページを全面リニューアルし、ページ内に自動販売機・商品・サービスなどに関する+αの情報を発信する「JB-plus」を新たに開設しました。「みんなが笑顔になる、快適な環境づくりのヒント集!」と題して、手軽にはじめられる福利厚生などの情報を提供しています。是非一度ご覧下さい。



ジャパンビバレッジグループのグリーン・オペレーション

提案 **販売** **回収** **適正処理** **資源再生** をトータルでコーディネートしています。

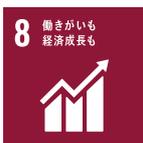


SDGs とジャパンビバレッジ

2015年9月の国連総会で採択された「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs)」は、2030年までに全世界が持続可能な開発をしていくうえで取り組むべき17の目標で構成されています。企業としても取り組んでいく必要があり、ジャパンビバレッジはこの中で大きく関わり得る4つの目標を重点テーマと認識し、取り組んでまいります。



【 ジャパンビバレッジとSDGsとの関わり 】 ジャパンビバレッジは4つの目標を重点テーマと認識し、取り組んでまいります。



- 働きがいも経済成長も**
- 柔軟な働き方の推進による生産性の向上
 - 従業員の健康づくりを推進



- つくる責任 つかう責任**
- 資源の持続可能な管理
 - 廃棄物の削減
 - 環境教育提供による情報発信



- 気候変動に具体的な対策を**
- CO₂排出量の削減計画 (2030年環境目標)



- 海の豊かさを守ろう**
- 海洋プラスチック問題の抑制 (ペットボトルの資源循環の構築、リサイクルボックス啓蒙、ボイ捨て抑制)

プラスチック問題への対応

～自動販売機専門オペレーターNo.1として～

今話題となっている、海洋プラスチック問題。この言葉を聞くと、海に漂うペットボトルを思い浮かべる方が多くいらっしゃるかもしれません。世界で日々大量に発生する「海洋プラスチックごみ」は、長期にわたり海に残存し、地球規模での環境汚染が懸念されています。ジャパンビバレッジはペットボトルの河川や海洋への流出防止、そして確実な回収リサイクル体制を構築しています。

ジャパンビバレッジのペットボトルリサイクル

ペットボトルはワンウェイ（使い捨て）プラスチックではありません。何度も再生可能な「資源」です。

飲み終わった後、リサイクルボックスに入れていただいたペットボトルは、ルートセールスがきちんと回収し、「リサイクル・プラザJB」ほかリサイクル企業にてリサイクルをしています。



▶ 飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザJB」

ジャパンビバレッジは自ら飲料空容器の再資源化を行うべく、リサイクル・プラザJBを2003年5月に設立しました。現在は、缶・ビン・ペットボトルのリサイクルを毎日行っています。

リサイクル・プラザJBでのペットボトルの処理方法は、選別・圧縮処理により「ベール品」に加工した後、その全量を協栄産業株式会社様へ出荷しています。協栄産業様のボトルtoボトルのリサイクルにより、新たな飲料用ペットボトル（プリフォーム：ペットボトルの原型）に生まれ変わります。

| | |
|--------|-----------------------------------|
| ペットボトル | 手選別後ベール品に加工し協栄産業様へ出荷 |
| 缶 | 金属加熱炉にてペレットに加工した後に製鉄会社へ出荷 |
| ビン | ビンを色別（茶・白・緑）に選別後 ガラスリサイクル企業へ出荷 |

リサイクル実績
(2019年度) **6,441t**



リサイクル・プラザJB外観



手選別



ペットボトルベール品



再生ペットボトルでできたプリフォーム（ペットボトルの原型）

▶ 環境教育活動

リサイクルや環境問題についての学習の場を皆様に提供しています。この中で、ペットボトルのリサイクル方法や分別啓蒙を通じて「ゴミ」ではなく「資源」であることをお伝えしています。

● リサイクル・プラザJBの工場見学

リサイクル・プラザJBは企業・学校等の団体・個人を問わず皆様の見学を受入れております。是非一度お越しいただき、飲料空容器のリサイクルの現場をご覧ください。

● 環境出前授業

地域環境コミュニケーションとして「飲料空容器のリサイクル」についての出前授業も行っています。実際にリサイクル製品に触れたり、体験ゲームを通して楽しみながら学べる授業となっております。

● ぼくとわたしのリサイクル作文コンクールの開催

毎年、夏休み期間中にリサイクル・プラザJBを見学した小学生を対象とした作文コンクールを開催しています。



リサイクル・プラザJB工場見学



作文コンクールの開催



出前授業

▶ リサイクルボックスステッカーによる啓蒙

自動販売機の横に設置している「リサイクルボックス」はどんなゴミでも捨てていい「ゴミ箱」ではなく、「飲料空容器＝資源」を回収する箱です。ジャパンビバレッジは、オリジナルの「リサイクルボックスステッカー」を作成し、「分別の徹底」と「リサイクル」を周知していきます。



ステッカーをはったリサイクルボックス

▶ 「プラスチック・スマート」キャンペーンへの登録

「プラスチック・スマート」は、環境省によるキャンペーンであり、「プラスチックとの賢い付き合い方」の実践事例を幅広い主体から募集し、発信する取組みです。ジャパンビバレッジも「ペットボトルリサイクルフローの構築」と「環境学習・啓蒙活動」について登録し、国内外に取組みを発信しています。



プラスチック・スマートホームページ

▶ 紙マドラーの取扱いを開始

マルチドリンクサーバーやコーヒーサーバーの付帯品のマドラーに、厚紙で作られた紙マドラーを採用しました。お客様先のワンウェイ(使い捨て)プラスチック削減活動の一助として活用いただいています。



紙マドラー

特集2

ジャパンビバレッジの オペレーション改革

ジャパンビバレッジは持続可能な社会の実現に向けて、無線導入拡大や自動販売機の消費電力量削減、廃棄商品の削減など様々な取組みを推進しています。

▶ 無線導入拡大と新巡回システムの構築

コンビ機・一部メーカー機に2018年度から無線システムの導入を開始し、現在は約8万5千台の自動販売機に無線が設置されています。無線からは毎日データが自動送信されているため、そのデータにより「売切れ防止」が図られています。

そして、この無線データを活用し、巡回システムを一新しました。無線から日々送られてくるデータを基に、最新のオペレーション計画が作成される仕組みになっています。これにより、ルートセールスの巡回効率が約10%改善され、労働時間の短縮、車輛走行距離の削減・燃料使用の削減に繋がっています。2020年度も引き続き無線を活かしたルート構成の導入を進めてまいります。



ルートセールスの作業効率アップ



▶ 新型ルートカーの導入

ジャパンビバレッジのルートカーに新型車を導入しました。最新の排出ガス規制をクリアするとともに、従来のルートカーよりもサイズをコンパクトにし、バックソナー・衝突軽減ブレーキを新たに装備することで、環境負荷と運転負担の軽減を図っています。その他、荷台の扉などの稼働部分を減らし、部品点数の合理化を図ることで、長期間の使用にも耐えられる造りになっています。



新型ルートカー

担当者の声 無線導入担当者として

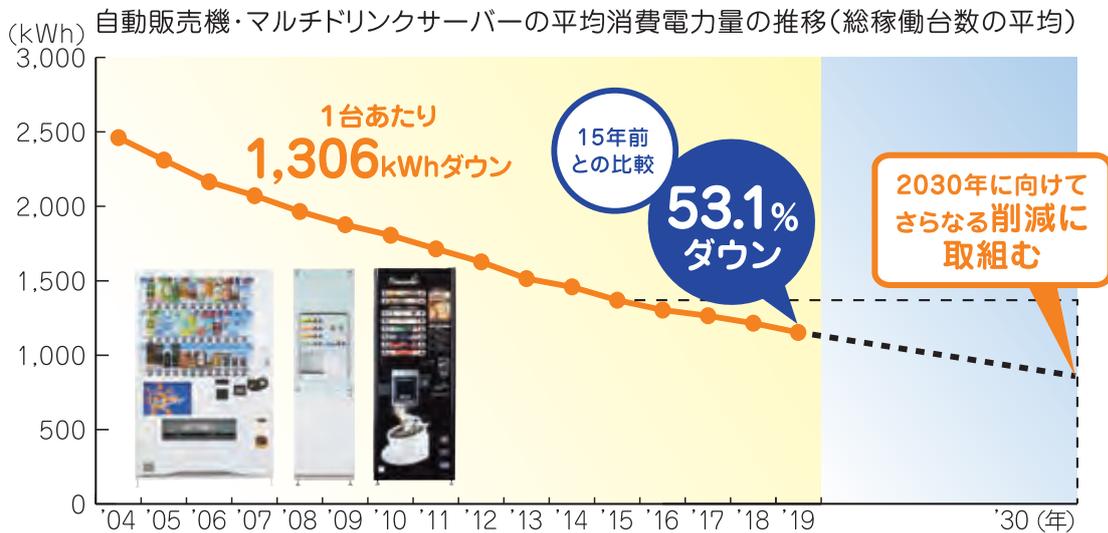
自動販売機に無線を導入することが決定してから、システム開発・基盤づくりを行い、約1年後に最初の1台が設置になりました。それから約2年が経過し、今は8万5千台の自動販売機に無線が設置されています。ここまで導入台数を増やせたのも、全国のメンテナンス担当、ルートマネージャーが1台ずつ設置していただいた結果です。その甲斐あって従業員からは「売切れが減り、かつ効率よくオペレーションができるようになった」「労働時間が削減できた」等の声があがっています。ジャパンビバレッジが「ONE JB」で導入したこの無線を、今後もお客様・従業員のために活用し運用改善を図ってまいります。

株式会社ジャパンビバレッジホールディングス 事業推進部 課長 高瀬 公一



▶ 自動販売機における消費電力量の推移

ジャパンビバレッジの事業活動で最も大きな環境影響のある自動販売機。総稼働台数の1台あたりの平均消費電力量(2019年)は15年前に比べて53%減少しています。今後も、省スペースタイプの小型機等、省エネ機の導入等を実施し、2030年にむけてさらに削減できるよう取組んでいきます。



▶ 廃棄商品削減の取組み

商品廃棄を減らすことはジャパンビバレッジの課題の1つとなっています。そのため、グループ全社で、春夏秋冬の商品入替えの際のHOT商品の加温劣化、賞味期限切れによる廃棄の削減、そして倉庫の商品滞留の削減に取り組んでいます。この取組みを社内全員で共有し、徹底して実施することが廃棄商品削減につながっています。この取組みにより、環境面では「食品ロスの削減」「廃棄物の発生抑制」の2つの効果が得られています。



オペレーション時も廃棄削減に取り組む



担当者の声 ジャパンビバレッジイーストの廃棄商品抑制プロジェクトの取組み

ジャパンビバレッジイーストでは廃棄商品抑制に重点的に取組むためプロジェクトを立ち上げました。取組みの中で特に力を入れたのはHOT商品の廃棄削減です。まず、HOT商品は加温による劣化が早いので、適正補充本数を自動販売機1台ごとに見極めオペレーションしました。またHOT商品からCOLD商品への切替のタイミングを各地域の気候に合わせて細かく対応しました。その結果、大幅な廃棄削減をすることができました。今後は、無線導入拡大と新巡回システムにより、商品管理が更に「見える化」されていきますのでそのデータを活用し更なる廃棄商品抑制に取り組んでいきます。

株式会社ジャパンビバレッジイースト 上信越事業部 事業部長 宇野 英樹



特集3

スポーツを通じた社会貢献

ジャパンビバレッジは、スポーツを通じて皆様に感動をお届けします。

▶ ジャパンビバレッジレスリング部

ジャパンビバレッジのレスリング部は、1978年に男子レスリング部として発足し、1989年には女子レスリング部も発足しました。これまで男女合わせて歴代15名の選手が在籍し、ソウルオリンピック金メダルの小林孝至選手、ロサンゼルスオリンピック銀メダル、バルセロナオリンピック銅メダルの赤石光生選手、アテネ・北京オリンピック銅メダルの浜口京子選手をはじめ数々のオリンピック、メダリストを輩出しています。

現在は、川井梨紗子選手、川井友香子選手、藤波勇飛選手が各大会に出場し活躍しています。



藤波勇飛選手



川井梨紗子選手

▶ 2020年のレスリング部

2020年4月に川井友香子選手が入部しました。川井姉妹は、姉妹での金メダル獲得、藤波選手は、主要大会での金メダル獲得をそれぞれ目指します。

所属選手



かわい りさこ
川井 梨紗子

【出身大学】
至学館大学
【主な成績】
2016年リオオリンピック1位(63kg級)
2017年世界選手権1位(60kg級)
2018年世界選手権1位(59kg級)
2019年世界選手権1位(57kg級)
【入社日】
2017年4月



かわい ゆかこ
川井 友香子

【出身大学】
至学館大学
【主な成績(2019年度)】
アジア選手権大会2位(62kg級)
全日本選抜選手権1位(62kg級)
世界選手権3位(62kg級)
【入社日】
2020年4月



ふじなみ ゆうひ
藤波 勇飛

【出身大学】
山梨学院大学
【主な成績(2019年度)】
全日本選抜選手権ベスト8(74kg級)
全日本選手権ベスト16(74kg級)
【入社日】
2019年4月



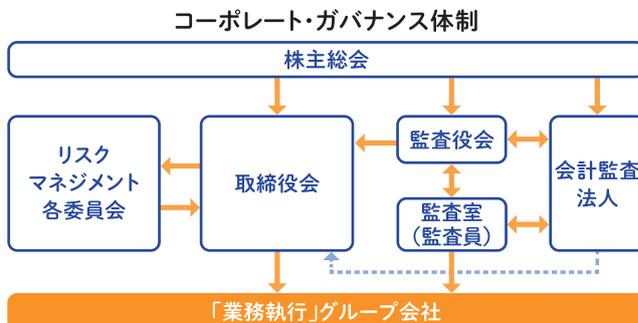
はまくち きょうこ
浜口 京子

【主な成績】
2004年アテネオリンピック3位(72kg級)
2008年北京オリンピック3位(72kg級)
2012年ロンドンオリンピック出場(72kg級)
【入社日】
2003年3月

ジャパンビバレッジは、社会から信頼される企業であり続けるために、コーポレート・ガバナンスの強化につとめています。

経営を監査する体制

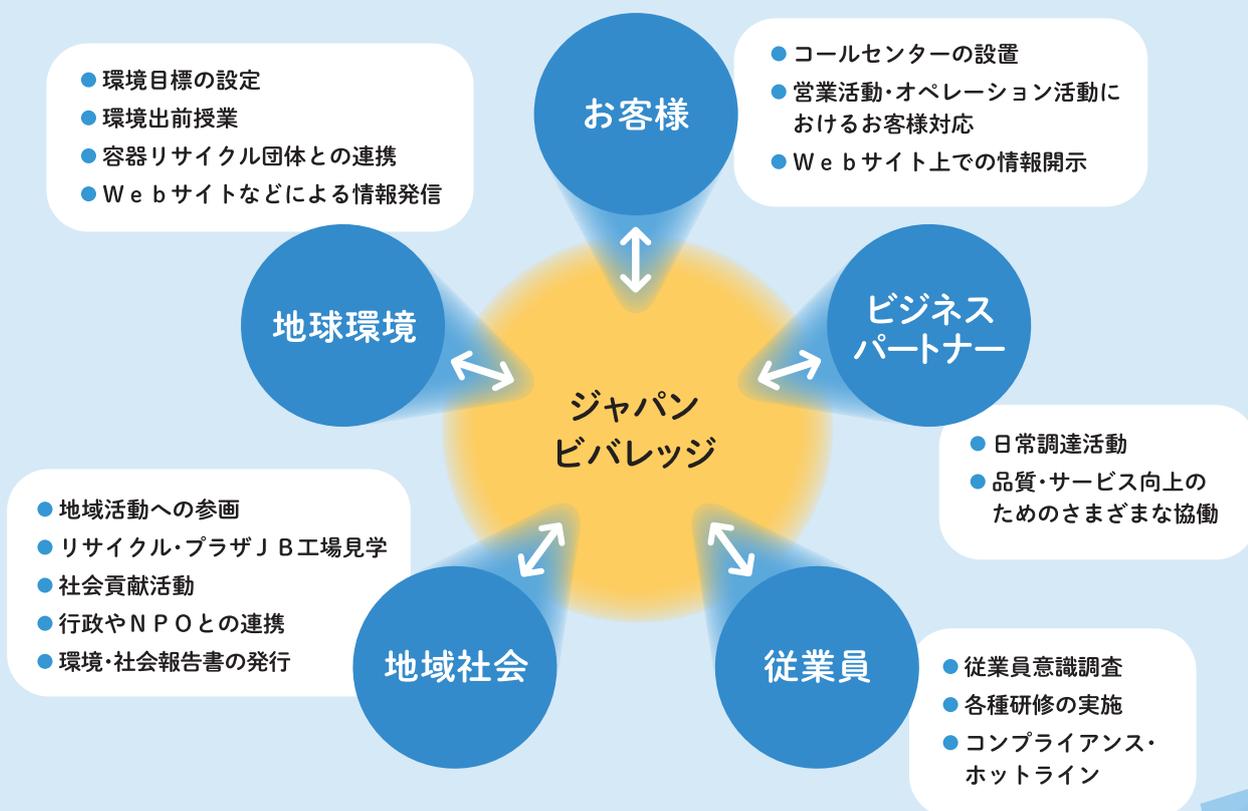
株式会社ジャパンビバレッジホールディングスの監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成され、業務の執行状況や内部統制システムの整備状況などを監査しています。また監査室を設置し、監査役会の監査活動を補助しています。加えて、グループ会社の業務執行状況などを監査・検証する監査員を設けています。さらに、外部監査法人が会計監査を実施し、会計や会計に関わる内部統制の適正性や適法性について、客観的な立場から検証しています。



ステークホルダーとのかかわり

私たちの事業活動は、多様なステークホルダーとのかかわりのなかで進められています。持続可能な社会の実現に貢献する企業であり続けるために、私たちはステークホルダーへの責任を明らかにするとともに、さまざまなコミュニケーションを実施しています。いただいたご意見や社会のニーズを企業活動に反映し、高い信頼関係や協働関係を継続的に築いていくことを目指しています。

ステークホルダーとのコミュニケーションの機会



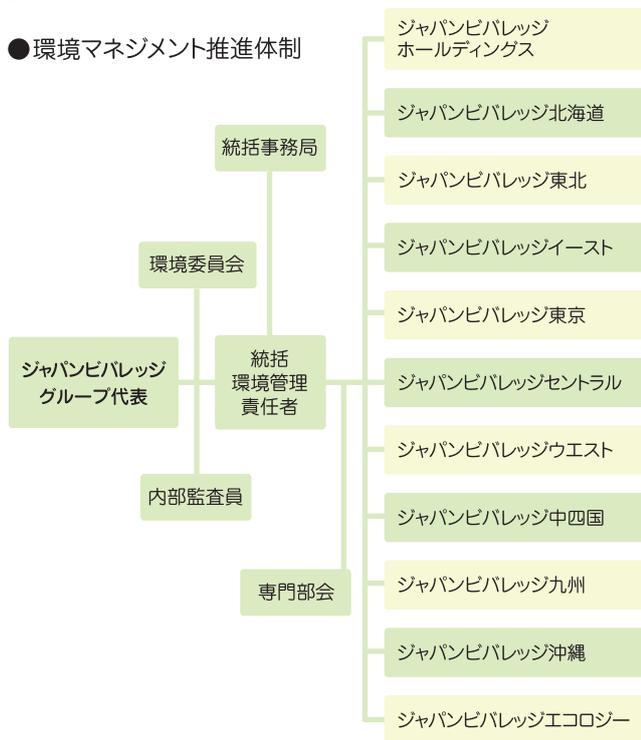
環境マネジメント&パフォーマンス報告

環境マネジメントシステム

ジャパンビバレッジの環境マネジメントシステムを継続的に推進するため、組織、役割および責任を定めています。

現在は、グループ11社の本社・支店の合計119サイトで運用を行っています。

●環境マネジメント推進体制



※ジェイビーサービス、日新サービス、エースターは除く。

内部監査の実施

ジャパンビバレッジは全サイトの内部監査を実施しています。内部監査を実施する「内部監査員」は全国に90名おり、毎年研修を受講してISO14001の知識を維持しています。事業活動のさらなる改善・発展にむけて取り組んでいます。



内部監査

法令順守義務

事業に係る環境法令（廃棄物処理法、省エネ法ほか）を把握し、順守しております。

一例として、廃棄物処理業者の現地確認を、年1回実施しています。



廃棄物処理法の順守（現地確認）

緊急事態への準備及び対応

全部署で災害に備えた防災訓練を定期的に（年1回以上）行っています。災害時の被害を最小限に抑え、従業員の安全を確保できるように取り組んでいます。



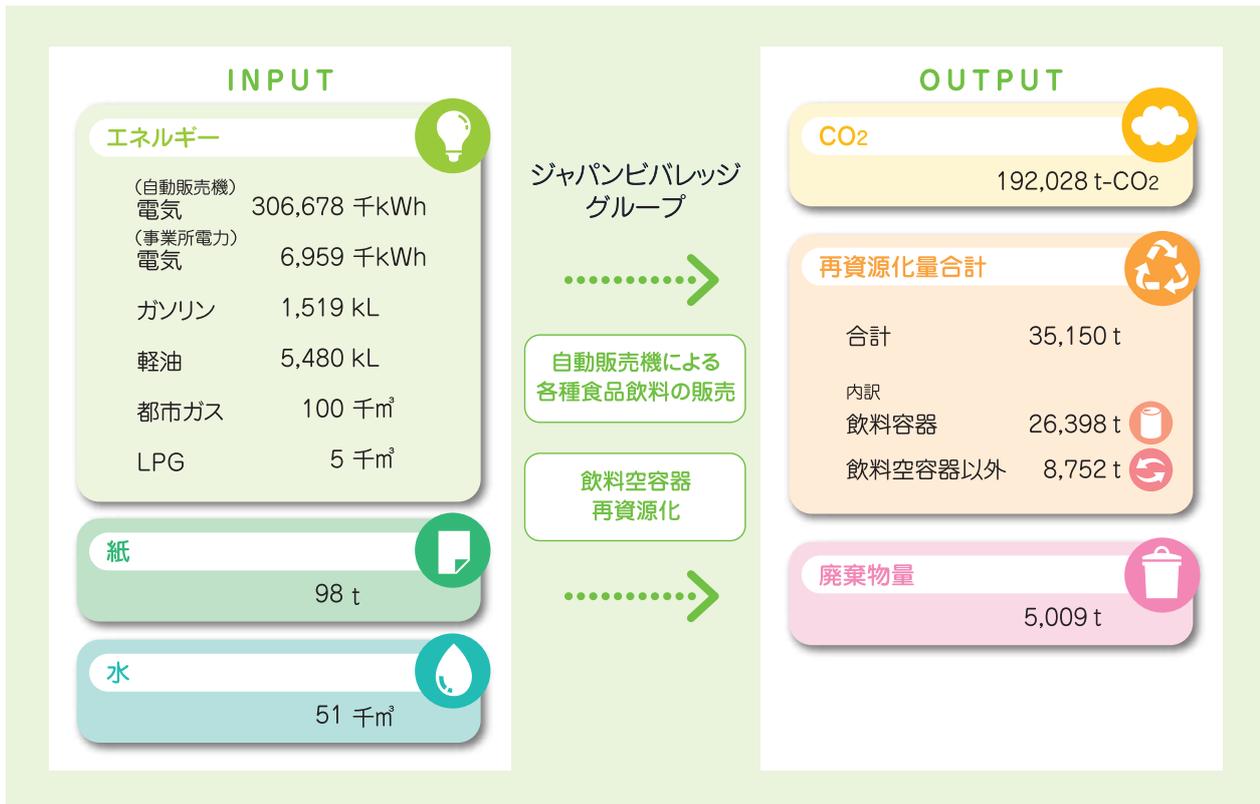
防災訓練

環境目標と実績

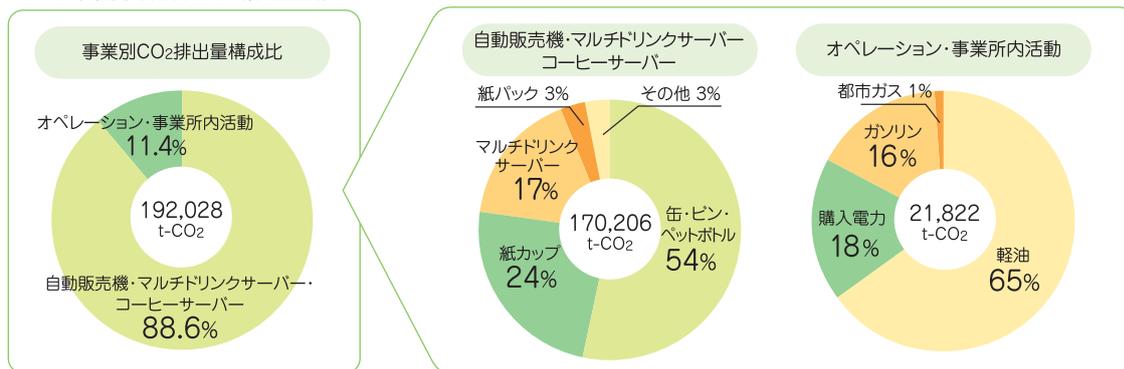
ジャパンビバレッジグループは、「グリーン・オペレーション」をテーマに、環境活動を行っています。2019年度は3つの環境目標「オペレーション車輛総走行距離」「商品ロス率」「事業所内省エネ」を掲げ取り組みました。

| 目標内容 | 目標値 | 目標達成率 | 評価 |
|---------------------|-------------------------------|--------|----|
| ① オペレーション車輛総走行距離の削減 | オペレーション車輛の総走行距離を2018年度実績以下にする | 達成106% | ○ |
| ② 商品ロス率の維持 | 2018年度の商品ロス率を維持する | 未達94% | × |
| ③ 事業所内省エネの実施 | グループ全体の消費電力量を2018年度比で1%削減 | 未達99% | × |

● 事業活動における資源投入量と排出量



2019年度事業別CO₂排出量構成比





取引先・お客様・従業員とのかかわり

ジャパンビバレッジは、取引先との協働やお客様との情報交換、従業員の技量向上など、様々なステークホルダーとのコミュニケーションにつとめています。



全国清涼飲料連合会との活動

2018年11月29日、一般社団法人全国清涼飲料連合会は「清涼飲料業界のプラスチック資源循環宣言」を発表し、清涼飲料業界が一丸となり、お客様、政府、自治体、関連団体等と連携しながら、2030年度までにペットボトルの100%有効利用を目指すことを宣言しました。その後の様々な取組みの中には「自動販売機専用空容器リサイクルボックスにおけるリサイクル啓発、及び効率的な回収への取組み強化」があり、ジャパンビバレッジは、リサイクルボックスステッカーの貼付・啓蒙、その後のリサイクルボックス内の実態調査などに参加しています。



リサイクルボックス内の実態調査



お客様との情報交換・共有

全国各支店ではお客様との関わり・コミュニケーションを大切にしています。日々のお客様先への訪問の中で、お客様が取組む環境・社会活動について情報をいただいたり、また情報を提供させていただいたりする場面があります。

一例として、「ゼロエミッションについてのディスカッション」「リサイクルの協業取組み」「地域で開催するイベントへの出展」などがあります。微力ながらお客様の活動推進の一助となればと思い取組んでいます。



「第5回府中市民協働まつり」(2019年11月23,24日開催)内の「府中の企業・事業所が取り組むCSR/CSVポスターセッション」に展示(ジャパンビバレッジイースト府中支店)



静岡県立三島北高等学校様と学校内でのリサイクルやゼロエミッションについてディスカッション(ジャパンビバレッジセントラル沼津支店)



こどもエコクラブ全国フェスティバル2019への出展

「こどもエコクラブ」は、幼児(3歳)から高校生までなら誰でも参加できる環境活動のクラブです。

ジャパンビバレッジもその活動に賛同して支援を行っています。今回、同団体が主催する「こどもエコクラブ全国フェスティバル2019」(2019年3月24日開催)に、当社も飲料空容器のリサイクルについて出展しました。全国の子ども達が資源循環の大切さについて知る機会となりました。



出展の様子



JB-1グランプリの開催

全国の代表ルートセールスが自動販売機オペレーションの技量を競い合う「JB-1グランプリ」を開催しました。本会は、従業員の企画提案により実現し、ジャパンビバレッジ初の開催となりました。当日は、パッケージ自動販売機部門17名・カップ自動販売機部門11名・リテール部門7名のルートセールス合計35名が出場し、それぞれの分野の技を競い合いました。

競技内容

本選では「実技競技」と「筆記テスト」が行われ、本選上位者を決定。その後「決勝戦」が行われました。全国から代表で選出されたルートセールスのため、仲間からの大きな声援の中、大変白熱した競技となりました。

●パッケージ自動販売機部門の競技内容

自動販売機補充・商品入替作業の正確性・速度
自動販売機設置先のお客様層に応じた商品の選定と配列 など

●カップ自動販売機部門の競技内容

コーヒー・ココアの味・吐出調整作業の正確性・速度
日常衛生業務の正確性・速度 など

●リテール部門の競技内容

お客様訪問シミュレーション
カスタマーサービス方法 など

表彰式

厳正な審査の結果、優勝者が決定しました。参加者からは、「普段はあまりみることがない仲間のオペレーション作業を見ることができ、やり方が参考・勉強になった」「大勢の従業員の前の競技で緊張したが、全国の仲間と交流もできたので充実した1日だった」との意見が多く寄せられました。本会は技を競い合うだけでなく、ジャパンビバレッジグループ全体が一丸となり成長する機会となりました。



JB-1グランプリ開幕



パッケージ自動販売機部門の競技



表彰の様子



カップ自動販売機部門の競技



表彰の様子



リテール部門の競技



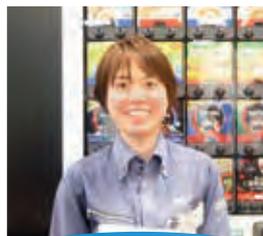
表彰の様子



パッケージ自動販売機部門

西島 拓哉

株式会社ジャパンビバレッジイースト
さいたま中央支店 ルートセールス



カップ自動販売機部門

手塚 春

株式会社ジャパンビバレッジセントラル
横浜北支店 ルートセールス



リテール部門

井形 真里

株式会社ジャパンビバレッジ九州
久留米支店 ルートセールス



地域社会・拠点とのかかわり

全国に点在するジャパンビバレッジの各拠点では、地域の清掃活動などを通じてコミュニケーションを図り、地元へ根ざした活動を展開しています。



各地域での清掃活動

ジャパンビバレッジは各地域で清掃活動に取り組んでいます。各部署によって事業所周辺のゴミ拾い、地域団体主催の清掃イベントへ参加するなど、実施形態は様々です。事業所近隣の環境美化、そして地域社会への貢献になればという思いで取り組んでいます。



会津アピオ清掃活動
(ジャパンビバレッジ東北 会津支店)



事業所近隣の清掃活動
(ジャパンビバレッジ中四国本社・広島支店)



新宿区一斉道路美化清掃
(ジャパンビバレッジホールディングス本社別館・
ジャパンビバレッジ東京本社)



まるごと沖縄クリーンビーチ
(ジャパンビバレッジ沖縄)



事業所近隣の清掃活動
(ジャパンビバレッジエコロジー)



「リビエラビーチクリーンSDGs夏休み企画」への協賛

リビエラリゾートグループ様はきれいな海を守るため、毎月第三木曜日に50名ほどの社員有志でビーチクリーン活動を行っています。2019年8月22日には『リビエラビーチクリーンSDGs夏休み企画』を開催し、ビーチクリーン体験を通じて「海岸・海ゴミ・環境」について子どもたちと一緒に学ぶとともに、ビーチグラスやマイクロプラスチックを用いて万華鏡などを作るワークショップを行いました。ジャパンビバレッジセントラルは、飲料提供の協賛および参加をしました。



リビエラビーチクリーンちらし



ビーチクリーンに参加

担当者の声 ビーチクリーン活動に参加して

リビエラリゾートグループ様が、海洋プラスチック問題の取組みの一つとしてビーチクリーン活動を行っていることを知り、ジャパンビバレッジは自動販売機オペレーターNo.1としての責務としてこの取組みに協賛・参加をさせていただきました。参加者総勢で30分間活動した結果、約50袋ものゴミを回収できました。思った以上の回収量に、このゴミが砂浜から海に流れてしまわないように、水際で防ぐ地道な作業の重要性を実感しました。お客様と共に活動・体験し、とても充実した時間となりました。

株式会社ジャパンビバレッジセントラル 磯子支店 支店長 齊藤 優二





**** 各種研修で「スキル・知識」獲得

ジャパンビバレッジではマネジメントに求められる「スキル・知識」を獲得するため、各種研修を実施しています。新任ルートマネージャーを対象とした「コーチング研修」では管理職とメンバー層のパイプ役の育成として、チームリーダーとしての心構えや、コミュニケーション・コーチングの技術を学ぶプログラムとなっています。また、自動販売機の技能と知識に関する資格として「自動販売機調整技能士(国家資格)」がありますが、その取得を目指すための講習会を各地で実施しています。各種研修を開催し、スキル・知識の強化を図っています。



新任ルートマネージャーを対象としたコーチング研修

第三者意見



いしだ ひでき
石田秀輝氏

地球村研究室代表
一般社団法人
サステナブル経営推進機構理事長
東北大学名誉教授
星槎大学サテライトカレッジ
in 沖永良部島校長

2004年㈱INAX(現LIXIL)取締役CTO(最高技術責任者)を経て東北大学教授、2014年より現職、ものづくりとライフスタイルのパラダイムシフトに向けて国内外で多くの発信を続けている。特に、2004年からは、自然のすごさを賢く活かすあたらしいものづくり「ネイチャー・テクノロジー」を提唱、2014年から奄美群島沖永良部島へ移住し「心豊かな暮らし方」の上位概念である「間抜けの研究」を開始した。また、環境戦略・政策を横断的に実践できる社会人の育成や、子供たちの環境教育にも積極的に取り組んでいる。近著:「人間の役に立っている ありがた〜生き物たち」(リベラル社2019)「正解のない難問を解決に導くバックキャスト思考」(ワニブックス2018)他多数

環境・社会報告書を読ませて頂き、強く感じたのは5つのステークホルダー・カテゴリーです。特に地球環境や地域社会もステークホルダーであることを明確にしたことはとても挑戦的でこれからの企業の在り方の重要な視点でもあります。さらに、これらは経営理念ともしっかりとリンクしています。ただ、この視点からはSDGsへの取り組みが聊か見えづらくなっています。SDGsの4つの重点項目以外にも、これらカテゴリーから取り上げるべきゴールもあり、それらをどのように考えるのが明確にして頂きたいところです。

個別に観れば、リサイクル・プラザJBを中心にしたボトルtoボトルなどの取り組みはサキュラー・エコノミーの一翼を担うものであり、8万5千台に及ぶ無線装置を組み込んだ自販機の導入はルートセールスの巡回効率10%UPにつながっていますが、それだけにとどまらず、ステークホルダーである地球環境負荷の低減や労働時間の短縮などの働き方にまで影響をしており、その活動は高く評価できます。その結果、商品廃棄に関わる環境目標の達成率は、57%から94%に大きく上昇したものの、

環境目標の達成は出来ませんでした。是非来年に期待したいところです。一方で地球環境負荷に関する指標は絶対数値だけでなく、再資源化率、廃棄率、CO2削減率のような定量的な視点と目標を入れて頂けるとより多くのステークホルダーにとって理解しやすくなると思います。

また、大きな問題になっている(海洋流出)プラスチックに関しては、ボトルtoボトルを始めマドラーの紙製への移行やプラスチックカップの取りやめなど具体的な活動に移行してきましたが、ジャパンビバレッジとしての基本針が十分明らかになっているとは言えません。環境負荷となるプラスチックを出さないように、出たものをどうするのか、是非社会を先導頂きたいと期待しています。

社会的には、長い歴史を有するレスリング部の活動、関連11社119サイトでの具体的な地道な社会連携活動は高く評価でき、また新たに始められたJB-1グランプリは社内だけでなく社外に大きなインパクトを与えるものだと思います。

是非、更なるGood JoBを通して『更なるGood JB』につなげて頂きたいと願っています。



ジャパンビバレッジグループ

ホームページ <https://www.jbinc.co.jp>

●発行・お問合わせ先

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町二丁目272番地5

TEL:048-651-1166 FAX:048-651-6611



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用した FSC 認証用紙を使用しています。